

人が人として生きる 迫で男女共同参画講演会

「男女共同参画フォーラム・人権を考える講演会」は1月20日、登米祝祭劇場で開かれ、訪れた約200人の聴衆は、個人の人権の尊重について考えました。

講演会講師は、講演師・声優など多彩な活躍をしている一龍斎春水氏。大正時代から昭和初期に活躍した童謡詩人、金子みすゞの生涯を声優ならではの表現力と、講談話芸の深みを融合させた「新作講談」により、人権尊重の大切さを訴えました。鈴木ひで子さん（69）＝豊里町竹花＝は「この講談を聞き、金子さんの詩の本当の意味を知り、心に響きました。あらためて人権について考えさせられました」と話していました



耳が不自由な人向けに手話通訳者が、一龍斎氏の言葉を伝えました。

厳かに無病息災祈る 佐沼でどんと祭・裸参り

「佐沼どんと祭・裸参り」(登米中央商工会青年部主催)は1月14日、佐沼一市通りなどで開かれ、商工会青年部のほか、市内の企業、団体などから約200人が参加し、今年一年の無病息災などを祈願しました。

どんと祭・裸参りは、昭和54年から始まり、今年で40回目。参加者らは、さらしや白装束姿にたいまつを持ち、旧登米・南三陸フェスティバル前から約500名先の津島神社に向かいました。南三陸町へ被災地支援に訪れている原田高行さん(32)＝兵庫県南あわじ市＝は「自分、家族と皆さんが健やかに過ごせるよう祈願します」と平穏な一年を祈りました。



ゆっくり一歩ずつ歩みを進める参加者ら。気温は氷点下2度と冷え込みましたが、一行は静かに無病息災を祈願しました。

未来の登米市を提案 中田で未来新聞コン開催

「第10回子どもたちが考える登米市の未来新聞コンクール表彰式」は1月28日、中田農村環境改善センターで開かれました。

コンクールは、未来を支える子どもたちが、まちづくりに興味を深めることが目的。本年のテーマは「2025年 わたしが住む自慢のまち」で、小学生の部11校55作品、中学生の部5校19作品の応募があり、児童、生徒らは、自分たちの作った新聞の内容を発表しました。最優秀賞には、東郷小6年1組「レインボーフューチャー」チームと新田中1年1組「Ambitions」チームが選ばれました。



受賞した全グループが作品を紹介。自由な発想の中に、取材や調査がしっかりしており、非常に読み応えのある新聞です。

火遊び絶対しないよ 米山で女性団員防災教室

市消防団女性団員による「防災教室」は1月16日、米山東幼稚園で開かれ、園児たちに火の取り扱いの注意喚起をしました。

女性団員が園児を対象にした防災教室は、県内で初の取り組み。団員は、火遊びの怖さを伝える人形劇、火事が起きた際の避難方法などを指導しました。園児らは「子どもだけで絶対火遊びはしません」と、大きな声で誓いました。市消防団米山支団本部分団の鈴木すず江副分団長(65)は「子どもたちの真剣な顔を見て、火災予防の大切さをしっかり伝えなければならないと感じました」と防火普及の重要性を再認識していました。



人形劇では、子どもだけで火遊びをし、お父さんとお母さんが駆けつけ、火を消し止めました。団員の演技に園児は大喜び。

登録増と信頼性向上 空き家バンク協定を締結

「登米市空き家情報バンク事業に関する協定締結式」は1月29日、市役所迫庁舎で開かれ、市は県宅地建物取引業協会(佐々木正勝会長)、全日本不動産協会県本部(小林妙子本部長)と協定を結びました。

県内で、両協会と空き家情報バンク事業の協定を結ぶ自治体は2例目。同事業は、移住・定住促進などのために、08年から開始し、これまで20件が成立しています。しかし、昨年12月末現在で、利用希望登録55件に対して、空き家登録17件となっています。両協会と協定を結んだことで、登録物件の増加と、信頼性の向上につながる効果が期待できます。



協定書にサインする佐々木会長、熊谷市長、小林本部長(写真左から)。

学校再編地域と共に 各町域で学校再編座談会

「学校再編に係る地域座談会」は1月15日から25日まで、市内9町域で開かれ、市教育委員会から小・中学校の再編についての説明と意見交換をしました。

市教育委員会は、児童数が減少傾向にあることから、当面小学校の再編を検討。昨年5月1日時点の22小学校の児童数は3902人で、6年後の2023年には527人減の3375人になると予想されています。これにより、19校で全学年1クラスになる見込み。市教委は、人間関係の固定化や序列化が生じないように、全学年でクラス替えができる規模を理想と考えています。座談会で頂いた意見を参考に、学校再編基本構想を策定する予定です。



「具体的な学校再編はいつ頃始まる予定なのか」などの意見が寄せられました。